

第1998回埼玉県教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和7年1月23日(木) 午前10時開会
午前11時33分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 日吉教育長、坂東教育長職務代理者、小林委員、首藤委員、櫻井委員、今井委員、佐藤副教育長、古垣教育総務部長、青木県立学校部長、吉田市町村支援部長、案浦参事、小谷野教育総務部副部長、井澤財務課長、荻原保健体育課長、木下保健体育課指導主事、越小中学校人事課長
平野書記長、小島書記、大久保書記、星野書記、縣書記
- 4 会議の主宰者 日吉教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 日吉教育長が、櫻井委員を議事録の署名者に指名した。
 - 会議を公開しないこととする事項について
日吉教育長が、第1号議案及び第2号議案の審議について、会議を公開しないこととする動議を提出
全出席委員がこの動議に賛成し、当該事項について会議を公開しないことに決定
 - 日程の変更について
日吉教育長が、日程を変更し、会議を公開しないこととした事項以外の日程について先に行うこととする動議を提出
全出席委員がこの動議に賛成し、日程を変更することを決定

(2) 報告事項

ア 県議会令和6年12月定例会概要について

井澤財務課長（提出理由、会期、本会議の質問、文教委員会について説明）

イ 「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果について

荻原保健体育課長（提出理由、「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果、課題及び課題解決に向けた対応について説明）

櫻井委員 資料14ページに記載のある体力課題解決研究指定校とは、どのようなものなのでしょうか。

荻原保健体育課長 体力課題解決研究指定校は、毎年度、本県において小・中学校から数校を指定しております。指定校では、体力向上に向けたテーマ等を定め、そのテーマに向けて組織的に取り組み、県内の全域に取組内容を発表しております。例えば、児童の体力課題等を教職員が分析し、課題に対する手立てを検討し、実践した上で成果等を発表しています。具体的には、休み時間などを有効に使い、児童生徒全員でストレッチに取り組んでみるといったアイデアを実践し、その成果等を発表していただく取組です。

櫻井委員 ありがとうございます。とても良い取組だと思いますので、学校における課題や研究結果など、資料がありましたら教育委員会において紹介していただければと思います。

荻原保健体育課長 研究内容につきましては、毎年度冊子を作成し、電子データもごさいますので御提供させていただきます。

坂東教育長職務代理者 埼玉県が全国に比べて数値が高いのは喜ばしいことではあると思いますが、新体力テストに変わってから20年近く経ちます。全国的な体力合計点は、新型コロナウイルス感染症があったとしても、新型コロナウイルス感染症前の数値には他の都道府県も戻っていないように、スポーツ庁のデータからは見えます。埼玉県も数値が高いとはいえ、全体的にはやはり10年前と比較すると子供の体力は低下していて、特に実技に関する調査の8項目の中で、これが低い、あるいは全国と同様全体的に高い、全国と比べて何か不得意なものな

どはあるのでしょうか。

荻原保健体育課長 本県の不得意な項目を申し上げますと、小学校のボール投げが数値的には苦手としている部分です。

坂東教育長職務代理者 それは、全国よりも低かったのでしょうか。全体的には全国よりも高いが、その項目だけが低かったのでしょうか。

荻原保健体育課長 全体的には全国よりも高いですが、その項目だけ低かったです。

坂東教育長職務代理者 また、残念ではありますが、運動やスポーツがあまり好きではない児童生徒は全国よりも多い割合となっていますが、学校の先生たちが努力をするなどして、児童生徒が自分で体力・運動能力向上の目標を立てる項目は全国よりも上回っています。これは、教育行政が努力をして、運動やスポーツがあまり好きではない子供たちに対して頑張らせているという効果にも見えますが、県では「好き」、「やや好き」という割合が減ってきているのか、トレンドとしてはいかがでしょうか。

荻原保健体育課長 「嫌い」、「やや嫌い」という割合は僅かながらに減少してきており、全国との差は縮まってきております。

坂東教育長職務代理者 好きという割合は、これまでずっと全国よりも低いということでしょうか。

荻原保健体育課長 そのとおりです。

小林委員 幾つか質問と、保護者としての意見を述べさせていただきたいと思えます。まず一つ目の質問として、資料3ページに今回の調査対象は国公立とあり、本日は、さいたま市を含む埼玉県の公立学校ということで報告していただいたのですが、例えば、公立と私立で数値的な差異、大きな違いはあったのでしょうか。何か傾向がありましたら教えてください。

荻原保健体育課長 公立と私立での傾向の差については、こちらでは把握しておりません。

小林委員 できれば知りたいので、後でもよいので情報として教えてください。次の質問ですが、資料13ページに結果と課題について記載があり、課題が2点挙げられています。1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒は全体の10パー

セントから20パーセント占めているので、1週間で60分以上運動してほしいということだと思いますが、なぜ60分以上なのか、その理由を教えてください。

荻原保健体育課長 体育の授業以外で、1週間の総運動時間が60分未満かどうか調査をしておりますが、こちらは国で一つ基準として設けております。厚生労働省では、1週間に1日1時間ぐらいの運動時間を勧めておりますが、おそらくそこから体育の授業時数を除くと、1日当たり9分程度の運動をしましょうという形になるかと思います。ですから、その辺りを踏まえて、最終的に設定されたものと考えております。ただ、その確固たる根拠は確認しているところでございます。

小林委員 保護者が、なぜ60分以上運動させなければいけないのかが理解できないと、納得して動いてもらえないと感じましたので、今確認させていただきましたが、その辺りについて知りたいと思っています。次に課題の二つ目について、先ほどの坂東委員の質問にもつながりますが、運動やスポーツが好きという生徒を増やしたいという思いは分かりますが、別に好きではなくても、教育的な努力によって、運動を前向きに捉えて計画的に動き、全国平均と比較しても結果としては良い結果が出ているという現実がある中で、こちら先ほどと同じですが、なぜ運動やスポーツが好きという児童生徒を増やさなければならないのかと思います。別に好きではなくとも、しっかり運動習慣があり、体力が付いていくなど、健康的に毎日を過ごせていれば、好きではなくてもよいのかと思います。私は体育などに関わってきたことが多いので、運動や体育に前向きな方たちは、どうしてもそのような思いがあることはとてもよく分かりますが、やはりそうではない人たちもいます。文化的な活動などに週に60分以上触れて、充実した毎日を過ごしている、かつ健康に過ごしているお子さんがいたら、それでよいのかなと思うところもあります。その辺り、なぜ「運動やスポーツが好き」という割合を増やさなければならないのか、理由がありましたら教えてください。

荻原保健体育課長 こちらにつきましても、子供たちが学校を卒業した後も生涯にわたって主体的に運動やスポーツに親しむ習慣を持ち、健康を維持していく形を目指しますと、学校で授業がある場合は、例えば、あまり好きではなくても、そ

こに参加するきっかけができます。学校を卒業すると、きっかけすらなくなってしまうことになりますので、そのきっかけを自分からつかめるように、子供のうちから、このような運動やスポーツであれば好きだという、運動に対して好意的なイメージを持ってもらいたいという考え方によるものだと把握しております。もちろん、運動やスポーツがなかなか苦手な児童生徒も多くいるかと思えます。運動にも様々なものがありますので、これであれば楽しくできる、これであれば毎日できる、そのようなところを見つけてもらえるような取組になると考えております。

首藤委員 今年も中学校2年生の女子が全国で1位ということで、うれしく思います。資料5ページにある体力合計点について、こちらは満点が80点で、それぞれの種目の採点基準が資料にあります。小学校5年生男子の54.33点、小学校5年生女子の56.43点、中学校2年生男子の43.52点、中学校2年生女子の50.51点となっており、全国平均よりも高いですが、この数字自体を高いと見ることができますし、もう少し高められるのではないか、もう少し点数がほしいという考えをお持ちなのか、まずはその点について教えてください。

荻原保健体育課長 数字的には、全国平均より本県の児童生徒の体力が高いと評価できると思いますので、現時点では、何が何でもよりもっと高くとは考えておりません。

首藤委員 埼玉県 averages の点数としては、現状の点数があれば問題なく、大丈夫であるということですね。一人一人種目によってばらつきが大きいので、それを自分で目標を立てて改善できるようにしていく方針で進めていくということでしょうか。

荻原保健体育課長 はい。どちらかという、かつての考えとは変わり、委員おっしゃるように、個々で目当てを定め、個々の中で伸びを確認していく方向で進めていきたいと考えております。

首藤委員 もう1点、運動習慣についてお聞きします。体育が好きではない子供が多い部分と関係があるのかと思うのですが、例えば握力だけを伸ばそうと思うと、そのトレーニングは大変だと思います。特に心肺機能を要する、シャトルランな

ども大変だと思います。当然好きにはなれないと思うのですが、日常的な運動、運動習慣を体育と関連する運動として子供が捉えることができればよいと思います。例えばボウリングをするなど、握力がないとできないと思いますし、テレビゲームを使った体操、登下校も歩きますので、それも運動になると思います。階段を使うようにするなど、そのような日常生活の中での運動を取り入れていけばよいのかと思います。どうしてもサッカーや野球などの目立ったスポーツに関心がいきがちですが、オリンピック競技に採用されているけれども、日本で放映されないようなマイナーな競技、世界的にはマイナーではありませんが、その中には、とても面白いスポーツもあると思います。そのような様々な競技を子供に紹介しながら、運動について楽しめるような対応ができるとよいのではと思います。

荻原保健体育課長 委員おっしゃるように、8種目の個別の数値を上げるために、ひたすらに何回も練習しようというより、幅広く様々な特性を持った運動やスポーツに親しみ、結果として握力が付き、ボールも遠くに投げられるようになっていたなど、そのような取組にするための知恵を集めております。

今井委員 資料から外れてしまうかもしれませんが、これだけ暑い日が続くと、子供たちが校庭に出られない、体育を校庭で行おうと思っても、温度が高いと制限をされてしまうことなどがあると思います。そのときに、例えば室内で運動するようなカリキュラムに移行するなど、学校での暑さ対策というのは、どのような取組をされているのでしょうか。

荻原保健体育課長 今年度の夏も暑かったですが、熱中症を防止するためのガイドライン等を定めており、暑さ指数(WBGT)の数値がある程度を超えますと、運動は原則中止となります。数値等を確認し、本当はグラウンドで活動する予定だったけど、今日は止めようというように活動を制限する取組は各学校で行っております。本当は思い切り体を動かすことができるよう、グラウンドや体育館で広く活動したかったけれども、少し空調が効くところに場所を変更して、スペースが限られたところでもできる運動など、学校で色々工夫して取り組んでいるところもございます。本県でもそのような状況が続いていきますので、家庭でもで

きる運動、例えば2畳ぐらいのスペースでもできるようなエクササイズなど、工夫した取組の紹介も必要と考えております。

今井委員 ぜひ、これから暑くなっていくときにでも、子供たちが体を動かすことが好きになるようなカリキュラムを工夫して、体を動かすと気持ちが良いというような感覚になってくれると、体が強くなることやコミュニケーションを図ることにつながるのかと思いました。

木下保健体育課指導主事 先ほど、小林委員から御発言のありました私立との数値比較について、一つだけ補足させていただきます。小学校につきましては、私立と公立で大きな差異はございません。ただし中学校になりますと、資料6ページにありますAからEまでの評価につきましては、私立の方が少し下の区分に下がるという結果がございます。

日吉教育長 説明のありました私立というのは、県内のことでしょうか。それとも、全国的なことでしょうか。

木下保健体育課指導主事 全国的な私立学校の状況です。

日吉教育長 いずれにしましても、体育は健康に生涯を過ごすというのが大きな目標になっておりますので、ぜひタイムなどの認知的な要素もありますが、やはり楽しく過ごすなどの非認知部分の要素も合わせて重要なのかと思います。動画を使用することや様々なシートを作成して今後働き掛けるという面もありますが、指導される側、協力を求める保護者側にも、その辺りの趣旨や意図をしっかりと説明していただいて、納得していただく中でスポーツに今後も取り組んでいただくことは重要だと思います。引き続きしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

(3) 次回委員会の開催予定について

2月6日(木) 午前10時

<非公開会議結果>

議事

第1号議案 教職員の懲戒処分について

上程

非違行為を行った南部地区の公立中学校の男性教諭（61歳）に対して、6月間
停職する懲戒処分を決定しました。

第2号議案 教職員の懲戒処分について

上程

所属職員が行った非違行為に関し、同所属職員への指導監督に適正を欠いた南部地
区の公立中学校の女性校長（57歳）に対して、戒告する懲戒処分を決定しました。